

影宋本『重廣補注黄帝内經素問』 版本諸問題について

王 旭東

南京中医薬大学

現存する『黄帝内經素問』諸版本の中、最も優れた版本は明代顧從徳影印した宋嘉祐刻本であると思われる。その版本は宋代書物の特徴があり、雕版が精良、字体が莊重優美、安定感がある。内容は全部揃い、印刷の質も高い。ほかの金元明清の翻刻本と比べて非常に優れている。

この版本はたくさん残され、『中国中医古籍総目』によると、国内にはこの版本を収蔵する図書館は40館ある。台湾、日本にも幾つかあると知られている。ただし、多くの版本の中、日本国立公文書館内閣文庫に収蔵している版本だけは、確実に顧從徳影刻宋本と判断できる。この版本には巻首に顧從徳が書いた三葉の題録がある。ほかの版本にはない。

近年、学苑出版社で影印出版された版本は、「清代御医薛福辰批閱句讀」の題署があり、影宋本だと考えられている。中医古籍研究分野では、この出版本は顧氏影宋本と同類され、『中国中医古籍総目』の「1922年武進錫鉄樵拋明嘉靖29年顧從徳影印本」はこの本のことを指している。

上に述べた学苑出版社の影宋本は、宋版版刻の特徴をすべて継承している。例えば、1、巻末には積音あり。2、版心には刻工の名前を記する。3、宋版の避諱が全部残されている（匡、恒、玄、徽などの欠筆）等。宋版に違いないと判明できる。

しかし、多くの版本は「顧氏影宋本」と記されているけれど、すべては本物の顧氏影宋本とは限らない。国内にある多くの版本はいずれも内閣文庫本を基準としているが、それぞれに刻板異同が存在している。

そのため、そのような版本は「顧氏影宋本」ではなく、ほかの版本の可能性もある。筆者は『経籍訪古誌』に載せている「佚名氏模刻宋本」である可能性が高いと推測している。『経籍訪古誌』には『素問』を以て此れ最正となす」と記している。但し、台湾故宫博物院に所蔵された版本は序文がないため、現時点では版本の特定できない。

学苑出版社によって出版された影宋本は明代の顧從徳刻本ではなく、本物の宋本であると推測できる。

清代の御医薛福辰は同治九年（1870）に宋本『重廣補注黄帝内經素問』24巻をもらい、喜んで熟読し、注釈をつけて数部刊行した。1922年、滬上名医錫鉄樵は当時の「中医廃止」の政策に対応するため、自費でその注釈本を重ね刷りで出版した。

薛氏が入手した版本は宋本だと推測する。薛氏は当時の名医であり、朝廷に務め、声望が高いし、普通の版本（顧氏影宋本）より優れたものを入手できたはずと推測できる。一方、その版本は毎冊の最初の葉には「天曆之宝」とほかの蔵書印がある。「天曆之宝」は元文宗孛兒只斤・図帖睦爾（1304-1332）の蔵印である。元文宗は教養が高いし、大量珍しく貴重な古籍骨董、書画碑帖を収集した。彼のコレクションには、例えば「蘭亭集序」「鴨頭丸帖」など、すべて「天曆之宝」の印記があり、『重廣補注黄帝内經素問』巻首の印記と一致である。

従って、薛氏の版本は宋本原刻であり、明代顧氏影印本の可能性が少ないと考えられる。ほか、薛氏注釈本の文字刻版は、首都図書館蔵本、四部叢刊と同じ、日本内閣文庫本と異なっている。

（翻訳：劉青 京都大学人間環境研究科共生文明講座 博士課程）